

特別なとき、「平成」という幕が下りるとき

福井県小学校長会長 井上 政夫

「ああ あわら贅沢（ぜいたく）」をスローガンにかかげるあわら市と「心から笑顔になれるまち 坂井市」をかかげる坂井市。ともに、幸福度ナンバーワンの本県を象徴する坂井地区において、平成30年度第70回福井県小学校長学校運営研究大会を開催できることを大変な誉れと感じております。これは、あわら市および坂井市の皆様の温かい御支援と御協力の賜物であり、会員を代表いたしまして、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

また本日は、本大会のために、公務御多用の中を、福井県教育委員会教育長 東村健治様、あわら市長 佐々木康男様、坂井市長 坂本憲男様をはじめ 多数のご来賓の皆様に御臨席いただきましたこと、高いところからではございますが心より厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、平成30年度は、特別な年です。新たな「幕開け」となる年です。

劇場、ステージを想像してください。

右手から「新学習指導要領実施に向けての移行期間」という幕が開きます。左手からは、「ふくい国体・障スポ大会」という幕が開きます。舞台の中央に立つ主役は、子どもたちです。私たち教職員は、舞台袖にいる黒子です。すべての子どもたちが、元気な笑顔で演じられるよう、きめ細やかな支援と温かな舞台作りに奮闘しています。

その教職員に、「働き方改革」という風が吹いています。この風は、黒子である私たちが、子どもたちと向き合うための風です。いつ向き合うのか。それは、「稽古」のとき、授業時間だと考えます。教師集団自身が「主体的・対話的で深く学び合う」集団になるよう、校長がリーダーシップをとっていかなければなりません。若手教員が増えている中で「授業力向上」こそが、最大の課題だと考えています。本県の教師集団は、誰もが真面目で力を合わせて熱心に働く日本一の教師集団だと自負しています。だからこそ、本県の教育がさらに充実したものなるよう舵取りをしなければならぬ私たちの責任は重大です。

本年度は、8月の南越地区での研究大会をはじめ、小教研の各教科領域ごとの研究会、東海北陸地区校長会での研究発表等が予定されています。これらの各大会が充実したものとなりますように、県内校長191名全員で、一致団結して取り組んでいきたいと思っております。

そして、この特別な年が終わるとき、「平成」という幕も終わります。

むすびになりますが、本日の大会に向けて準備や運営など、これまでご尽力をいただきました坂井地区の校長先生方に心より感謝申し上げますとともに、各学校のより一層の発展と教育活動の充実を願ひまして開会のご挨拶とさせていただきます。